

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価計画書】

中学校区におけるめざす子ども像	社会の中で人とつながり、よりよく生きる子
-----------------	----------------------

堺市立新檜尾小学校
校長 古谷 俊之

<p>令和6年度 重点目標</p> <p>(1) 自立貢献～「探究」と「協働」をど真ん中に置く学校をめざす～</p> <p>(2) 具体的なめざす力・像</p> <p>育てたい力・・・考える力</p> <p>めざす児童像・・・自立貢献する児童</p> <p>めざす教職員像・・・良き伴走者となる教職員</p>
--

<p>確かな学びの現状と今年度の基本的取組みに関する考え方</p> <p>令和4年12月に中央教育審議会が公表した「令和の日本型学校教育」は、長年続いた戦後の知識注入型学びにおいて一つの解を求める「正解主義」や集団において個人が他の人と意見を合わせるように誘導される「同調圧力」を克服して、すべての子どもを「自立した学習者に育てる」ことが示された。この公表を受けて本校では、学校教育目標を「自立貢献～「探究」と「協働」をど真ん中に置く学校をめざす～」を掲げて本年度をスタートさせた。具体的には、高学年における「教科担任制」と低・中学年における「授業交換制」の導入である。学校群モデル校として、6年児童は、中学校に行き、赤坂台小学校児童と共に体育の授業を混成クラスで中学校教諭より受ける試みも開始した。教科担任制・授業交換制は教職員の専門性を活かし、授業の質の向上により、児童一人ひとりの理解度・定着度を更に高めると共に複数の教職員が関わることにより多面的な児童理解を図り、最終的に中学校への円滑な接続を狙っているものである。</p> <p>本年度は、学校群モデル校となったことに鑑み昨年度以上に「社会・地域に開かれた学校」をめざし、総合的な学習を通じて児童が主体的に地域と協働することを行う。昨年度末に完成した児童の手作りの防災パンフレットの活用、防災教育の新たな進化、キャリア教育と融合した社会や地域での活動等を行う。更に「総合」をキーとするカリキュラムマネジメントを意識した「つながる教育」を重視する。以上の実現を図るためにICTを駆使した「個別最適な学び」と「協働的な学び」をバランスよく行い、学校教育目標の実現に向けて学びの実現に努力する。</p>	<p>豊かな心・健やかな体の現状と今年度の基本的取組みに関する考え方</p> <p>「豊かな心」</p> <p>特別活動(学級活動・児童会活動・クラブ活動・学校行事)を充実させることで、児童一人ひとりの心の醸成及び人間性の高揚を図る。望ましい集団行動を通じて心の調和と個性の伸長を児童同士、児童と教職員、児童と地域の方々と本校の特徴である「縦割り活動」や昨年から本格実施している「地域との協働活動」、特に人との交流体験を重視した心の醸成に今年度は更に力を入れて取り組む。「総合的な学習」の専科教員が配置されたことにより、昨年度から力を入れている「防災・減災教育」の更なる深みを追究すると共に3年生から中学校3年生までの「総合」を系統立てることを考えながら、7年間の本学校群における「総合」の体系化をめざす。そのような「総合」の充実を通して、自分たちの住む社会や地域の実態を知り、進んで他の人々や集団、地域の安全に貢献したい児童を増やし、将来の地域の担い手としての意識向上のきっかけとさせる。これらの活動により将来地域を担う一員としての自覚が生まれ、「地域を愛する心」の醸成に結びつける。「道徳」は昨年度から引き続き校内研修の教科として位置付けているので、全教職員で道徳科を通しての心の育成を図る。「読書習慣の確立」と「ビブリオバトル」を通して人に伝える力・コミュニケーションする力の増進に取り組んでいく。さらに、特別支援学級とは各学年が交流会を行い、日常的にクラスで共に学んだりすることで、共に尊重し合いながら生活していく態度や心を育てていく。これらの活動を通して、本年度も学校一丸となって、教育活動を通しての「豊かな心」の育成をめざしていく。</p> <p>「健やかな体」</p> <p>今年度は、前述のとおり6年生が中学校で中学校教員による授業を受けられること、更に体力向上検討会議のメンバー校になったことに伴い、外部の有識者のご指導も得られるので小学校体育の本質の研究も視野に入れた活動を行う。研究の骨子は「一人ひとりに合った持続可能な運動の発見」とし、100年人生を意識した生涯に渡っての運動の意識化を小学校時代から育むことを掲げている。具体的にはなわとび朝礼の充実、校外的には連合運動会をはじめ全学的な体育行事、地域での体育的交流行事、幼少連携体育行事等を企画或いは参加して、「健やかな体」の育成をめざしていく。</p> <p>*今年度「豊かな心・健やかな体」作りを通して目指す児童像</p> <p>VUCA時代に生きる本校の子ども達が心身共に強く生きる「少々わんぱくでたくましい檜尾っ子」</p>
--	--

中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価時期	進捗確認 (～11月)	達成状況(年度末)		
						自己評価	学校関係者評価	
基礎学力の定着	「読む・話す・聞く・書く」力、計算力の育成	・朝の読書タイム(火・木曜日)、読書ノートを使用した図書室の本の貸し出し等を通して、読書意欲を高める。秋以降は、読むことを話す聞くことにつなげる「ビブリオバトル」も取り入れ、総合的な学力の展開につなげる。 (●教科担任制・授業交換における課題・次のステップの考察)	・学校独自アンケートの「読書30分以上」の児童全体の割合を昨年度以上 読書ノートの冊数状況。 ビブリオバトル開催数。 (担当教諭との対話の充実)	学校独自アンケート 読書ノート	年度末 毎学期	○ 図書館開館時の利用者数も多い。	○ 読書習慣は根付いているが、取組の充実が必要。	○ 読書を通じた疑似体験は学童期には重要である。より一層の取組に期待する。
		・5,6年生の算数で専科指導を実施し、児童の理解度に応じた基礎基本の着実な定着を図る。	すくすくウォッチ・全国学力調査の正答率を大阪府平均以上	すくすくウォッチ 全国学力調査	年度末	◎ 平均を上回っている。	◎ 両調査とも平均を上回った。	◎ 引き続き、学力向上に努めてほしい。
		●総合的な学習の時間及び生活科の時間と学級活動の話し合い活動を通して、自分の意見を分かりやすく伝える力、人の意見をきちんと聞く力、異なる意見に対して調整する力などコミュニケーション力を育てる。	各話し合い活動の目標がほぼ達成できたか。	話し合い活動の観察	毎学期 年度末	◎ 児童自ら考え、行動する姿が「総合的な学習の時間」を中心に多くみられる。	◎ 地域との協働活動や学校群での合同授業など、多様な人と積極的に交流した。	◎ 多くの取組が見られた。今後も充実した学習活動に期待する。
確か	家庭学習の習慣の定着	授業についての調べ学習や復習、日記など自主的な家庭学習として「ひのおスタディ」に全学年取り組ませる。学習手法の高度化を取り入れ効果的な家庭学習を目指し、来年度に向けてICT等を使った個別最適な家庭学習の考察、実証試験の実施を行う。	各学年の提出目標値以上	ノート提出率	毎学期	○ タブレットを活用し、長期休業中の課題を設定している。また、日常の宿題にもICTを活用した取り組みを行っている。	◎ タブレットを積極活用し、家庭学習の充実に努めた。	◎ タブレットだけでなく、「書く」ことも大切であるとする。子どもの育成のためにバランスよく取り入れてほしい。

な 学 び	学習環境づくりの共通理解	・「ひのおスタンダード」を教職員で共通理解し、全員が同じ方向での学習規律・学習環境づくりに取り組む。 ・低学力層の学力伸長の環境づくりを考察し基礎力の充実を図る。	全学級が同じ方向で取り組んでいる。	ひのおスタンダードチェックシート	年度末	○	教職員研修を実施し、学習環境づくりに励んでいる。	○	各種研修を行い、教職員の意識向上に努めた。	○	
	ICT化を見据え児童がタブレットを使う機会を増やす	・タブレットを授業で使う機会を増やすことを教職員で共通理解し、それぞれのクラスで積極的に使用する。	全学級で使う回数が増えている。	実践報告	年度末	◎	日常的にタブレットを活用している。	◎	日常的にタブレットを活用している。	◎	デジタル・アナログのバランスを考慮し、より効果的な方法を模索し続けてほしい。
授 業 改 善	考える授業の展開	・「特別活動」「道徳科」「総合的な学習の時間・生活科」等の研究授業や公開授業を通して、探求学習を意識した授業の展開を図る。	全教員が公開授業を実施。	実施報告	毎学期	◎	計画通り、公開授業を実施し、研鑽に励んでいる。	◎	計画通り行った。	◎	学校群での合同防災授業や地域のイベントに学習として参加するなど、充実した取組が多くみられた。引き続き、子どもの「探究心」を育む取組に期待している。
		子どもたちで課題解決が行える授業、分かる喜びや学ぶ楽しさを実感できる授業づくりをめざす。	児童がノートに自分の考え・思いをしっかりと書いている。 学校評価アンケート「先生の授業は分かりやすい」(児童)、「分かりやすく、学びたくなる授業を行っている」(保護者)	授業でのノート等 授業スタンダードチェックシート 学校評価アンケート	毎学期 年度末	○	「学びのコンパス」に準じた授業を意識し実施している。	○	各種アンケートとも肯定的意見が多数であった。探究のサイクルを取り入れた授業の実施をより一層充実させる。	○	

地域協働	開かれた学校	学校情報の積極的な発信	・学校ホームページ・校報等を活用し、教育活動の現状と成果の発信に努める。	ホームページアクセス数昨年度以上 学校評価保護者アンケート「学校からの文書や通信、ホームページ等の内容は分かりやすく、タイムリーである」	実践報告 学校評価アンケート	毎学期	△	△	児童の個人情報保護に努め、適正なホームページの運用を行いたい。	△	個人情報に気を配り、可能な方法で情報発信を期待する。	
		地域との連携	・「堺版コミュニティスクール」の組織をより強化し、教育活動、児童見守り活動等を支援できる外部人材を確保し活用する。更に社会地域に開かれた学校を目指し、協働的活動の具体案を検討し来年度の実現を模索する。	外部人材を効果的に活用する 学校評価保護者アンケート「家庭や地域と連携協力して子どもを育てようとしている」	実践報告 学校評価アンケート	毎学期	◎	◎	地域自治会など、外部との連携がすすんでいる。 自治会と連携した学習を積極的に取り入れ、相互協力が強化された。	◎	◎	地域の人材を活用した活動が多くみられた。引き続き、学校・地域が両輪となる取組を行いたい。
			●★今年度は幼保小連携及び中学校区3校の学校群を意識した活動及び地域連携における活動の3取組を中心を実施する。	先ず教職員同士の話す機会を増やし、その上で相互の授業参観・公開研究授業参観や各行事に積極的に参加し、交流する	実践報告	毎学期	◎	◎	◎	◎	◎	◎
<p>校長より(年度末)</p> <p>「学校群」・「総合的な学習の時間」・「幼保小連携」を中心とした活動を多く行い、「地域で子どもを育てる」土壌づくりが進んだ。 「学校群」・「幼保小連携」では、進学時の円滑な接続や系統的な学習をめざし、ねらいに向けた取り組みを各種校園で行うことに大きな意義を感じた。 「総合的な学習の時間」での取組における地域との協働や学校群での合同防災授業では、子どもたちの「探究心」をくすぐる活動を取り入れ、子どもたちは目の前にある課題に対し、自分事として積極的に取り組んでいる姿がみられた。 子どもたちが将来、社会を担う一員として活躍できるよう育成することは社会的課題と認識している。あらゆる事象に対し、疑問を持ったり課題を見つけたりといった能力の育成のため、「探究」を軸に置いた教育活動を実施する。</p>						<p>学校関係者評価者から(年度末)</p> <p>昨年度から続く「地域協働」がより一層進んだと実感できる一年だった。今後の学校教育の計画にも期待が持てる。地域住民として、学校教育に積極的に関わることで子どもの健全な育成に寄与していると感じる。引き続き、学校の取組に対し協力や助言を行いたい。</p>						